

第4回 仙台市中学校長会総会 あいさつ

会長 高橋 泰

今年の春は、桜の開花宣言が出されたと思ったら、本格的な雪が降るなど、政治状況や社会状況の混乱が自然界にまで及び始めているかとも感じられるような混乱ぶりです。4月の後半になっても、まだ春の到来が実感できない毎日です。

本日は、ご多用中のところ、仙台市教育員会 教育長 青沼一民 様をはじめ、市教委の幹部の方々、そして関係機関の方々、さらには、歴代の校長会長の先輩の皆様方のご臨席を賜り、第4回仙台市中学校長会総会を開催することができまして、主催者として心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

昨年度末に17名の会員が退職、あるいは行政や他管区への異動ということでお別れいたしました。今年度は15名の新会員と2名の再入会員をお迎えし、会員数65名ということで仙台市中学校長会をスタートすることができました。

さて、仙台市中学校長会は、平成19年度に宮城県校長会から分離・独立して以来4年目に入ることになりますが、これまでの学校教育の姿勢を謙虚に振り返るとき、どちらかと言えば、「受身の学校教育」、「文部科学省や教育委員会からの指示や命令を受けてから動く学校教育」だったと反省せざるを得ません。

これからは、全日本中学校長会が全日中教育ビジョンとして提言している『学校からの教育改革』を視野に入れて、現場からの教育改革を実践していかなければいけないと考えています。

そういうこともあって、昨年度後半から、青沼前会長のご指導の下、より一層充実した仙台市中学校長会として機能を発揮したいと考え、三役の外に各部の部長・副部長にも枠を広げて「臨時の組織等検討委員会」を開催して、これまでの校長会としての役割や会務分掌について見直す機会を設けました。

そして、「臨時の組織等検討委員会」において、具体的には、中学校教育全般についての課題を解決するために、これまでの各部の業務内容が適切かどうか、そして、各部相互の業務の関連性が図られているかどうかなどについて検討しました。

その検討結果と改善策については、多少ではありますが今年度の各部の「活動計画案」に反映されていますので、後ほど、じっくりご覧いただきたいと思っております。

この外には、今年度以降、次の各点について、……いずれも相手のあることで、本会独自の判断で行うことができるものではありませんが、順次改善を図ってまいりたいと考えているところでもあります。

1 中高連絡会の持ち方について

昨年度までは、仙塩地区の公立高校との連絡会と私立高校との連絡会については、どちらも連絡会と懇談会の両方を開催してきましたが、今年度から、仙塩地区の公立高校との連絡会については、連絡会は実施するが、懇談会は実施しない方向で考えておりますし、私立高校との連絡会については、連絡会は実施せずに、懇談会のみ実施する方向で、相手方に申し入れをしているところです。

2 小学校長会との合同校長会のもち方について

昨年度まで12月初旬に実施していた小学校長会との合同校長会については、今年度から懇親会を実施しない方向で、小学校長会の方に申し入れています。

さらには、市PTA協議会との連携のあり方、例えば、小中の校長とPTA会長が一同に会しての400人を超える規模で行う合同懇親会等についても検討してまいりたいと考えています。

3 宮城県校長会や東北地区校長会 研究協議会への参加体制の問題について

次の点について見直していきたいと考えています。

- ① 各教育事務所で持ち回りで実施している「宮城県・仙台市中学校長会研究協議会」への参加については、近い将来には参加しない方向で、22年度中に県中学校長会と協議したいと計画しております。

- ② 東北地区の中学校長会 研究協議会への参加体制については、21年度の福島大会には全員参加、20年度の宮城大河原大会にも全員参加でした。今年度の岩手大会にも隣県ということで全員参加を要請されましたが、青沼前会長から東北地区の中学校長会の役員会のおきまして、申し入れをしていただきまして、結論として、県の校長会は全員参加とのことですが、仙台市としては2分の1の参加ということで認めていただき、今後も2分の1、さらには3分の1程度まで減らしていきたいと考えているところです。

これは、将来的には、大都市中校長会研究協議会への参加人数を現在の7～8名から2倍程度に増やして、大都市中学校長会の方にシフトしていきたいと考えていること、市内の校長が全員一斉に学校を空けることが危機管理上で懸念が生ずることなどが主な理由でございます。

- ③ 宮城県が会場となる大きな研究協議会として、25年度に東北地区の中学校長会研究協議会が、28年度に全国の中学校長会研究協議会が予定されており、県校長会からは、25年の東北大会は県校長会が主管するので、28年度の全日中は仙台市校長会が主管してくれないかと打診されていましたが、昨年度中に、これも青沼前会長の方から、「仙台市としては協力体制は十分にとるが、東北大会も全国大会も宮城県中学校長会が主管すべきで、仙台市中学校長会が主管することはできない」と、回答をしたところであります。

なお、前回は平成15年に仙台国際ホテルで開催した「大都市中学校長会の研究協議会」が平成29年度に仙台市開催となっておりますので、これには仙台市中学校長会を挙げて対応してまいりたいと考えているところでございます。

4 以上の外に、例えば、次のような課題についても検討を始めたいと考えています。

- ① 中体連の問題について

例えば、部会長等の選出の問題、会費の徴収の問題、教員の功労表彰の問題、教員の引率等のサービスの問題、中体連以外の大会への参加の問題等については、20年度から県校長会と連携して検討を始めて、徐々に解決の目途が付き始めてきています。

今後は、教育研究会等に関連する問題についても検討を始めることにしています。

- ② 修学旅行や野外学習との問題について

例えば、経費の標準額の問題については、過日の合同校長会で教育指導課長から経費や宿泊日数の基準の撤廃の方向性の話が出て、一応の解決の方向性が出てきましたが、それだけでなく、万一、インフルエンザ等で修学旅行を中止や延期にした場合、キャンセル料は市教委で面倒をみってくれるのかなどという問題について、他都市の実態を調査しながら、市教委に要望を出していかなければいけないと考えています。

- ③ さらには、危機管理研修や法制研究、学校経営や学校関係者評価、情報化への対応等も含め、我々校長の力量向上のための研修のあり方についても改善を図ってまいる必要があると考えています。

そもそも、校長会のメンバーの一員として、新会員もベテラン会員も全員が「校長としての力量」を持ち合わせて、確固たるリーダーシップを発揮して学校経営に当たらなくてはなりません。この力量アップの観点から、校長同士の情報交換や協議が自由・活発にできるような時間を確保するようにしたいと考えています。

そして、今年度は、「会務分掌による与えられた業務をこなす」発想から脱却し、新しい課題の掘り起こしとその解決のための方策の協議・実践の場として、例会や研修会の意義をとらえなおしたいと考えていますので、会員の皆様のご協力をいただきたいと思います。

最後になりましたが、これまで申し上げました様々な改革の推進に当たりましては、市教委、関係諸機関、そして、歴代会長の皆様方からの指導助言が不可欠だとも考えておりますので、これまで以上に、本中学校長会にお力添えをいただきますようお願い致しまして、開会に当たってのごあいさつと致します。

本日はありがとうございました。